

**基礎凡例及びリスト**

- 特記なき場合、外周：FG1 (150巾)
- 特記なき場合、内部：FG2 (150巾)
- ⊠ 人通口補強：FG4 (600開口)
- ⊡ 人通口：補強筋なし (600開口)
- ※床スラブ 特記なき場合、FS1 (230厚)
- ⊕ (+50) 耐圧板レベル (設計GLからの高さ)
- (増打ち) ⊕ (+50) 土間レベル (設計GLからの高さ)
- (埋戻し) ⊕ (+50) 埋戻しレベル (設計GLからの高さ)
- ⊠ 1階の柱
- 鋼製束
- アンカーボルトA-40  
柱芯より200、隅柱より120内外
- ⊙ アンカーボルトA-70  
芯より100離れ
- ⊙ (A-90) アンカーボルトA-90  
芯より100離れ
- ⊙ (A-90) アンカーボルトA-90  
芯より矢印方向に18mmずらす

**特記事項**

※地盤支持力  $**kN/m^2$  第\*種地盤  
 地盤沈下の可能性 -  
 試験方法：スウェーデン式サウンディング試験予定  
 ※計算上必要地耐力  $22.60kN/m^2$   
 ※地盤改良後の許容鉛直支持力  $**kN/m^2$   
 ※設計強度 普通コンクリート  $F_c = 18$   $F_q = 21$   
 鉄筋 SD295A  
 (Fc: 設計基準強度 Fq: 品質基準強度)  
 ※コンクリートの骨材、水及び混和材料の種別は JASS5 第4節による  
 ※アンカーボルトは、耐力壁の取り付く柱、土台の端部・継手・仕口、及び@2000以内に設置する  
 ※アンカーの埋込み長さは下記の通り  
 ・一般アンカー (A-40相当)：250以上  
 ・ホールダウン用アンカー (A-60/70相当)：360以上  
 ・ " でHD35仕様の場合：550以上  
 ・異形Sアンカーボルト (A-60/70相当)：200以上  
 ※型枠の取外しは打設後、以下の期間を空けること  
 6~9月(平均温度20℃以上)：4日 それ以外：6日

※着工前に地耐力を確認し、不足する場合は地盤改良等を行い、十分な支持力を確保すること。

適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
						図面名 基礎伏図	S-1
						縮尺 S=1/50	

構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和

基礎梁リスト 鉄筋：SD295A (D10~D16) コンクリート：18N/mm<sup>2</sup>

注)ハナ部については、それを設けることにより、施工が困難になる場合には省略してよい。  
注)外周部基礎梁下には捨てコンクリートを打設のこと。

計算上の基礎梁主筋のdt (注)かぶり厚さではない。  
施工誤差を考慮し、10mm幅で大きい側(不利側)に数値を丸める。  
上端一段筋：60←(40+11+14/2) 下端一段筋：80←(60+11+14/2)  
上端二段筋：90←((58+103.2)/2) 上端二列一段筋：60 下端二段筋：110←((78+123.2)/2) 下端二列一段筋：90  
人通口補強筋：70←(40+14+14/2)

符号	FG1:一般外周部	FG2:一般内部	FG3:玄関ドア下	FG4:人通口
断面				
上端筋	1-D13	2-D13	1-D13	2-D13
下端筋	2-D13	2-D13	1-D13	-
たて筋	D10@200	D10@200	D10@200	-
腹筋	2-D10	1-D10	2-D10	-
符号	FG3A	FG5	FG6	FG7:外周の深基礎
断面				
上端筋	2-D13	1-D13	1-D13	1-D13
下端筋	2-D13	1-D13	1-D13	1-D13
たて筋	D10@150	D10@200	D10@200	D10@200
腹筋	-	3-D10	3-D10	3-D10

基礎梁のスターラップは、認定のユニット鉄筋の場合はスポット溶接とし、それ以外(認定のないユニット鉄筋及び現場加工)の場合はフック付とする。

適用		設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
							図面名 基礎断面図 1	S-2
							縮尺 S=1/30	
						構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和		

耐力壁凡例及びリスト(S-3~5共通)	
▼	面材片面 石膏ボード15ミ 0.9倍 ※屋内側のみ使用
▼	面材片面 ダイライトMS9ミ 2.5倍 ※屋外側のみ使用
≡	面材片面 構造用合板7.5ミ以上 2.5倍 ※屋内側の一部に使用
△	片筋交 米桐 45×90 2.0倍
△	双筋交 米桐 45×90 4.0倍
△	※筋交いの取付け向きは、鋭角側が柱脚
※組合せの耐力壁の倍率は各仕様の合計値とする ただし、上限は5.0倍とする	
※伏図中( )内の数値は、低減後の倍率を示す	

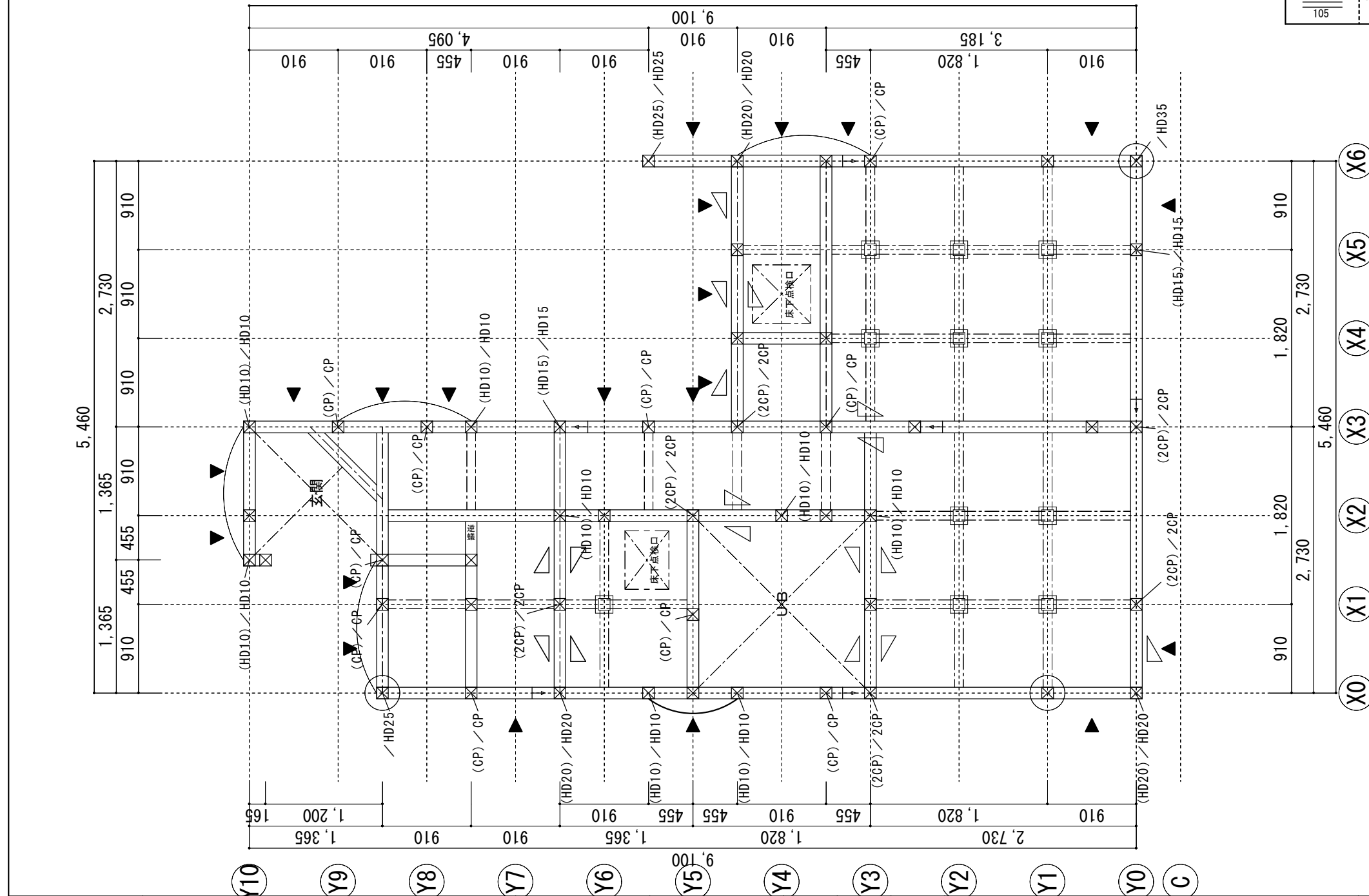
耐力壁特記事項(S-3~5・7共通)	
※耐力用面材は、柱・間柱及び横架材、又は受け材等に固定する。釘仕様は下記の通りとする	
・石膏ボード：GNF40又はGNC50及び認定品@150以下	
・ダイライトMS：N50又は認定品	
周辺部@100、中間部@200	
ダイライトMS：SFN50/WSNφ5.2xL32/DTGNφ3.5xL35	
周辺部@100、中間部@200	
・構造用合板：N50及び認定品@150以下	
※小開口付き耐力壁の扱いは国交省技術的助言1335号による(周囲の軸組から離し、開口径50cm以下とする)。	
※外部面材：バルコニー・下屋など床勝納まりの場合、ダイライトMS不可のため、構造用合板7.5ミ以上の真壁納まりとする。	
※その他の仕様の場合は特記参照のこと	

部材特記事項(S-3~6共通)	
※特記なき土台・梁は120×120とする	
※伏図中( )書きの梁はLVL140Eを示す	
※柱材WW集成はE95-F315(同一等級)とする	
※柱材唐松集成はE95-F315(同一等級)とする	
※梁材赤松(オウシュウアカマツ)集成はE105-F300(対称異等級)とする	
※土台米松集成はE95-F315(同一等級)とする	
※構造用集成材は日本農林規格に適合。	
※構造用単板積層材は日本農林規格適合。	
※構造用製材は平成12年告示第1452号に適合(無等級材)。	
※梁材LVLは140E-特級65V-55H、ダフリカ唐松とする	

※2・3階床下地は構造用合板を、四周辺を床ばり胴差又は受け材等に固定する(N75@150)	
※野地は構造用合板を、垂木に対し横使い、川の字打ちとする(N50@150)	
※構造用合板は日本農林規格に適合。	
※水平構面外周横架材に用いる金物は特記なき限りイの仕様とする	
※梁背270以上は、羽子板ボルト2段引きとする	
※構造耐力上、主要な部分に使用する無等級材は、節・腐れ・繊維の傾斜・丸身等による耐力上の欠点の無いものを使用する。	
※『角材』：角ホゾ、30×30を示す。	

部材凡例及びリスト(S-3~6共通)	
⊗	通し柱1-2階 120×120 WW集成
⊗	通し柱2-3階 120×120 WW集成
⊗	管柱 120×120 WW集成
×	下階の柱
≡	土台 120×120 米松集成防腐材
≡≡	大引 90×90@910 米桐防腐材
≡	床梁 120×120~ 赤松集成(補強部) LVL140E
≡	床梁 105×105 赤松集成
≡	小屋梁 120×120~ 米松
≡	105 " 105×105 "

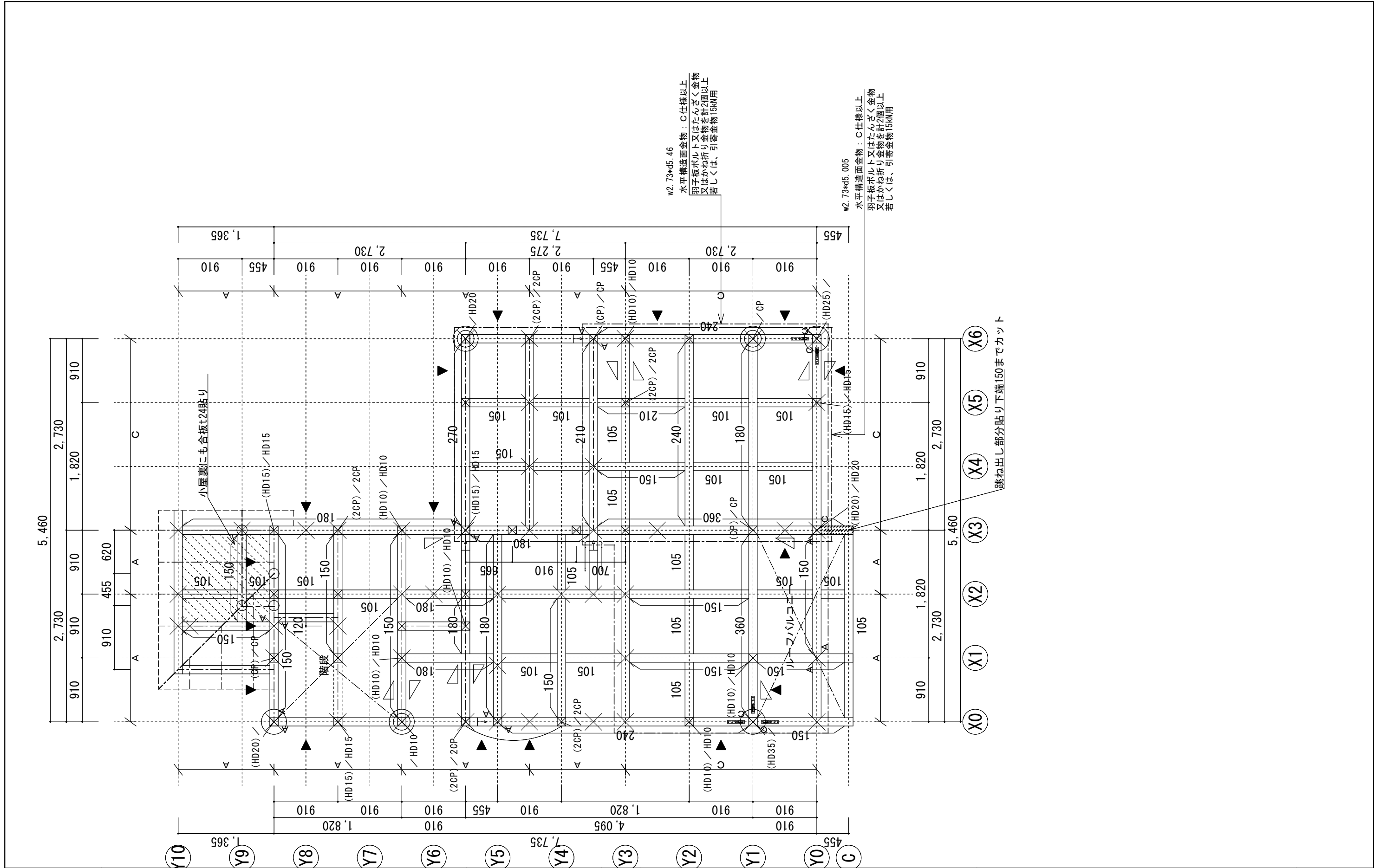
---	根太1F 45×45@303 米桐
---	2F 45×60@455
---	垂木 45×45@455 米松
○	小屋束 90×90 米松
△	" 大面 120×120 "
△	挟み束 90×90 米松
---	" 大面 120×120 "
---	棟木・母屋 90×90 米松
---	" 梁 105×105 赤松集成
---	火打土台 45×90 米松
---	鋼製火打
床下地	1階 構造用合板24ミリ
	2階 構造用合板24ミリ
	3階 構造用合板24ミリ
野地	構造用合板特類9ミリ



金物凡例及びリスト(S-1・3~5・7共通)	
記号	許容耐力(N) 金物
CP	3380 CP、及び同等認定品等
2CP/CP*2	6760 CP、及び同等認定品等×2
HD10	10000 S-HD10、及び同等認定品等
HD15	15000 S-HD15、及び同等認定品等
HD20	20000 S-HD20、及び同等認定品等
HD25	25000 S-HD25、及び同等認定品等
HD35	35400 HD35ビス止めネール ユニ35
HD20*2	40000 S-HD20、及び同等認定品等×2
A	7500 差込みの木部接合
+羽子板ボルト又は短冊金物、かねおり金物のうち1個	
B	10100 引掛けの木部接合
+羽子板ボルト又は短冊金物、かねおり金物のうち1個	
C	15000 差込みの木部接合 引掛けも含む
+羽子板ボルト又は短冊金物、かねおり金物のうち計2個	
D	20000 差込みの木部接合
+H D金物20kN用及び同等認定品等	
引掛けの木部接合 継手に限る	
+短冊金物3個	

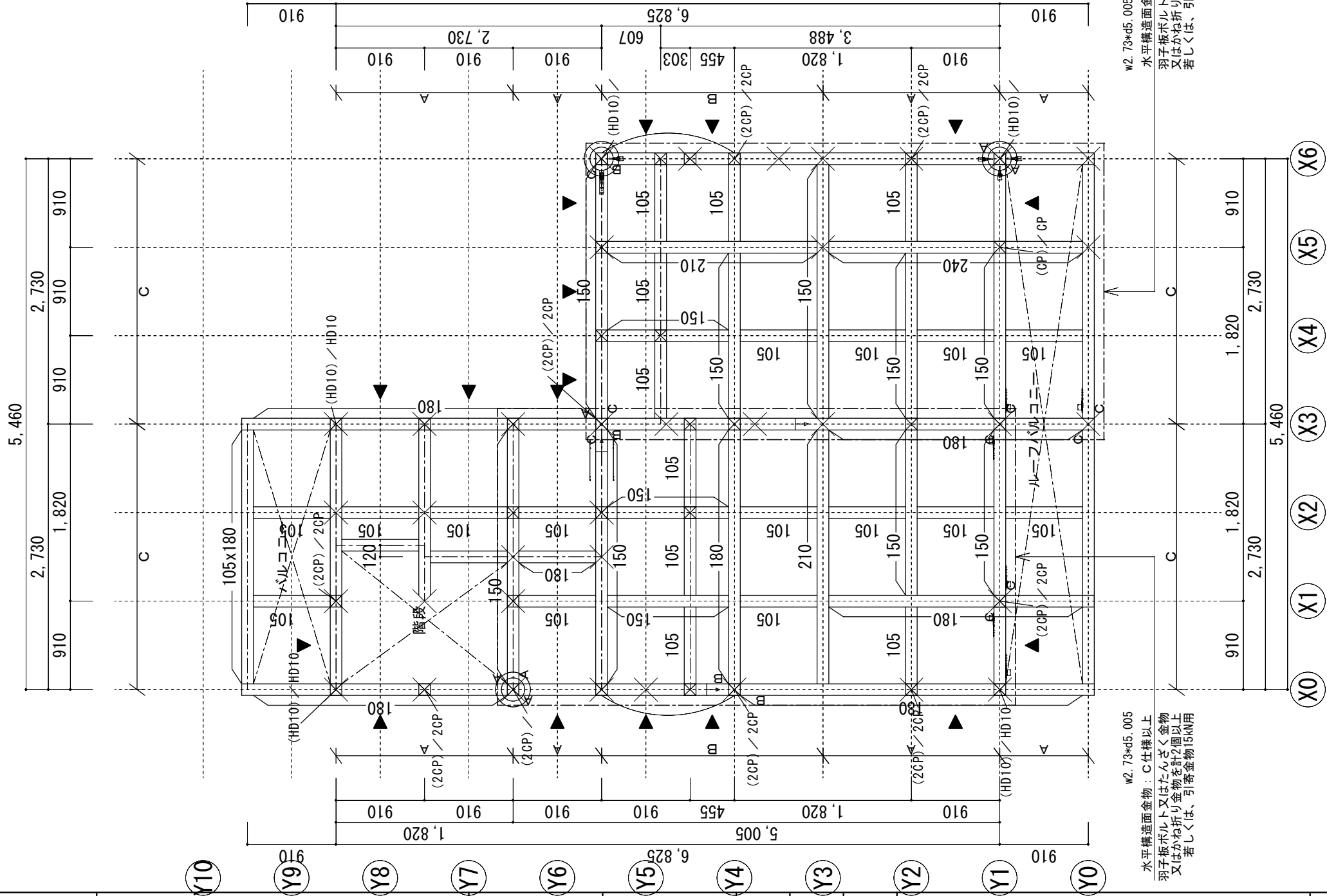
金物特記事項	
※同等認定品等：同等認定品、性能認定品及び品質性能試験により、耐力の確認されているものとする(添付認定書参照)	
※伏図中(***)/**は、柱頭金物/柱脚金物を示す	
※柱脚と柱頭は同一の金物とする(通し柱部分を除く)	
※上下階の連続する柱に六角ナットを介して緊結する場合は耐力の大きい側の引寄金物を使用する	
※1階柱脚の"2CP"及び2枚打ち出来ない箇所は、"S-HD10"相当の金物を使用する	
※許容耐力は樹種グループJ3による	
※差込みの木部接合とは、大入ほぞ差し・傾ぎ大入桁差など、木部で引張力を負担できない接合方法を示す。	
※引掛けの木部接合とは、蟻掛け・蟻継ぎ・鎌継ぎなど木部で一部の引張力を負担する接合方法を示す。	
※通し柱と横架材の仕口のAはBに読替える。	

適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
						土台伏図	S-3
						縮尺 S=1/50	
構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和							



適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
						図面名 2階床伏図	S-4
						縮尺 S=1/50	

構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和

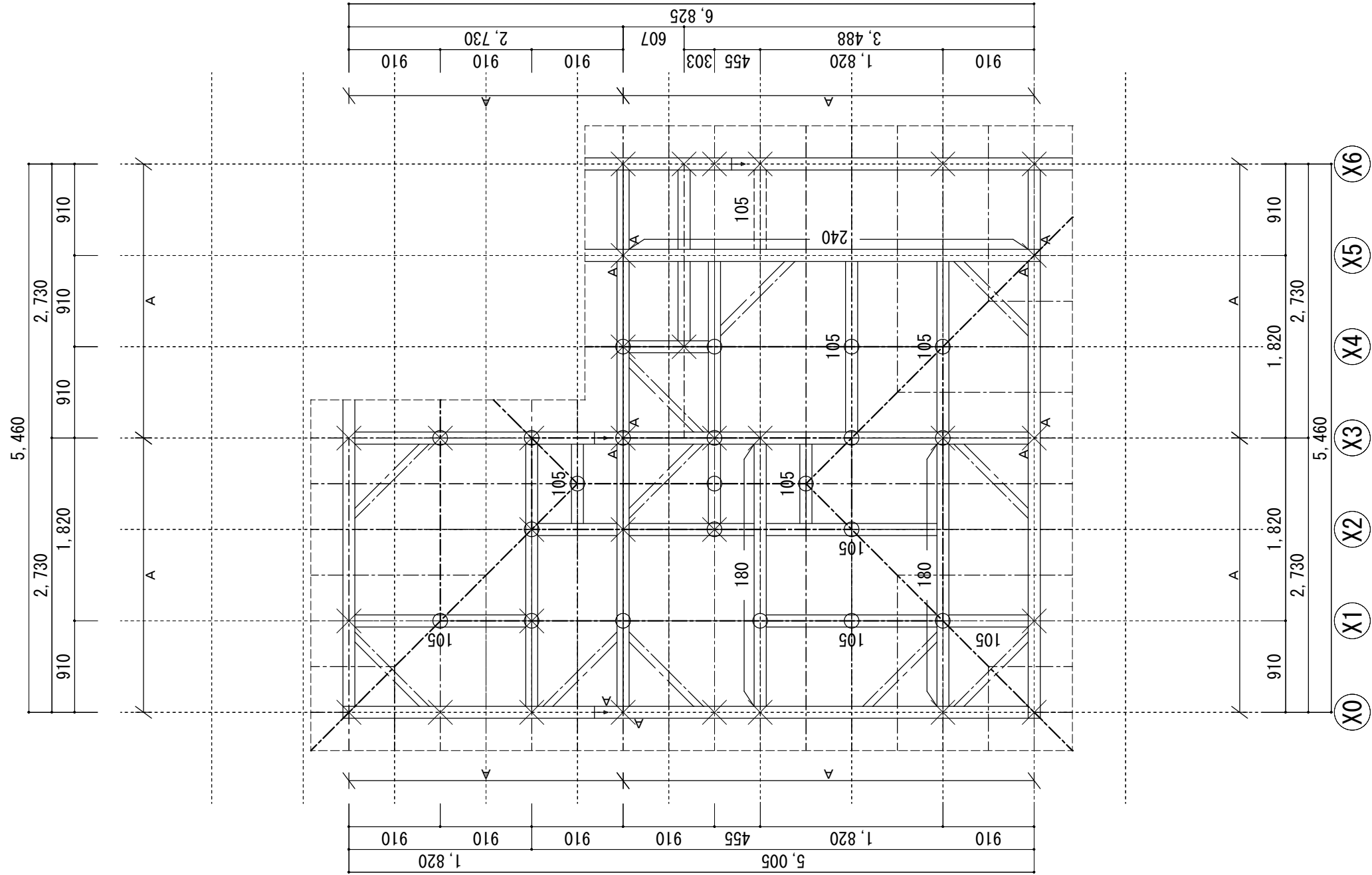


w2.73\*d5.005  
 水平構造面金物：C仕様以上  
 羽子板ボルト又は太心寸く金物  
 又はかね折り金物を計2個以上  
 若しくは、引帯金物15KN用

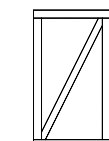
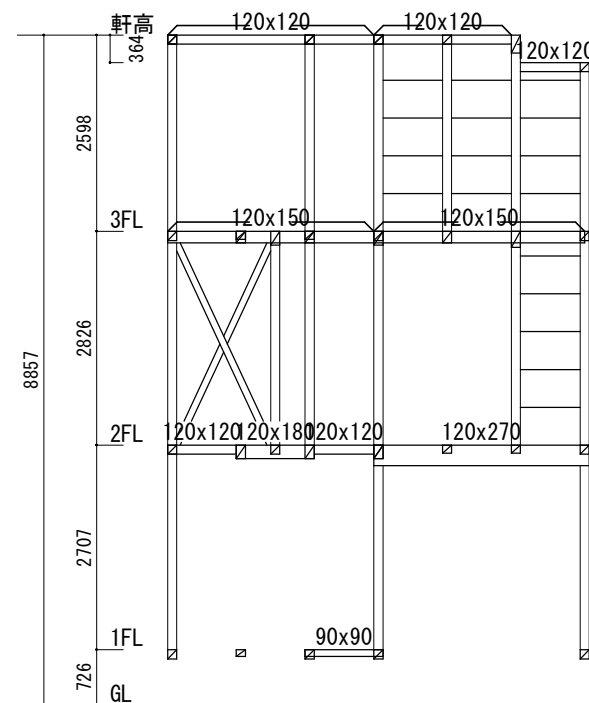
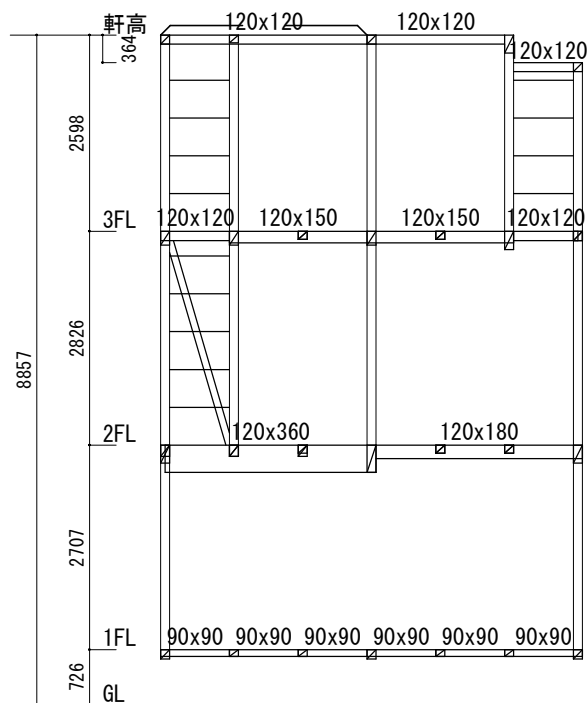
w2.73\*d5.005  
 水平構造面金物：C仕様以上  
 羽子板ボルト又は太心寸く金物  
 又はかね折り金物を計2個以上  
 若しくは、引帯金物15KN用

適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号 S-5
						図面名 3階床伏図	

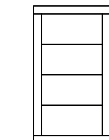
構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和



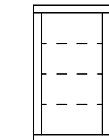
適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和	工事名称		図面番号 S-6
							図面名 小屋伏図	縮尺 S=1/50	



筋かきを示す

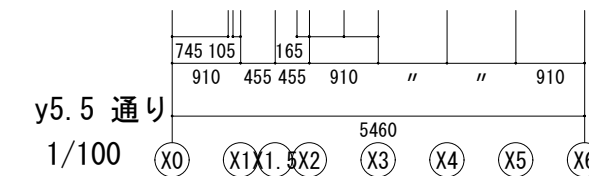
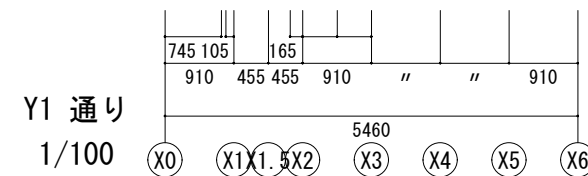


構造用面材 (S-FRAM) を示す

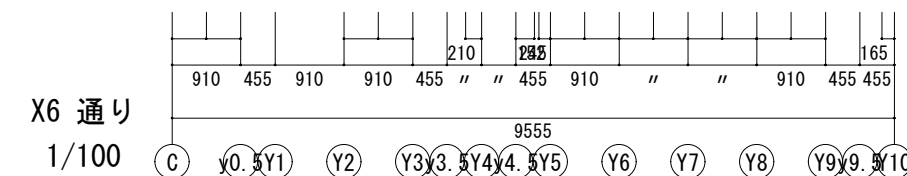
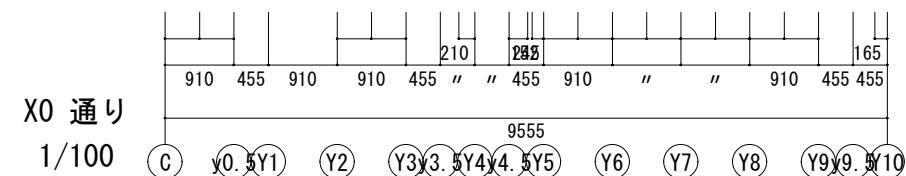
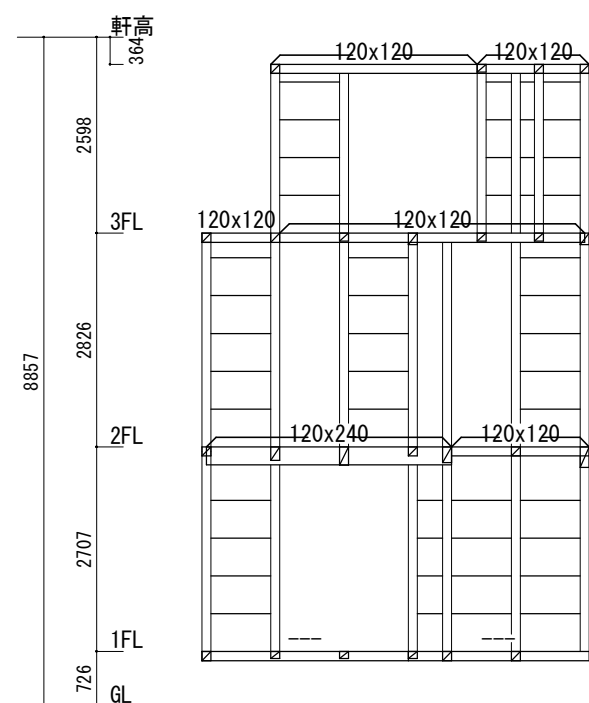
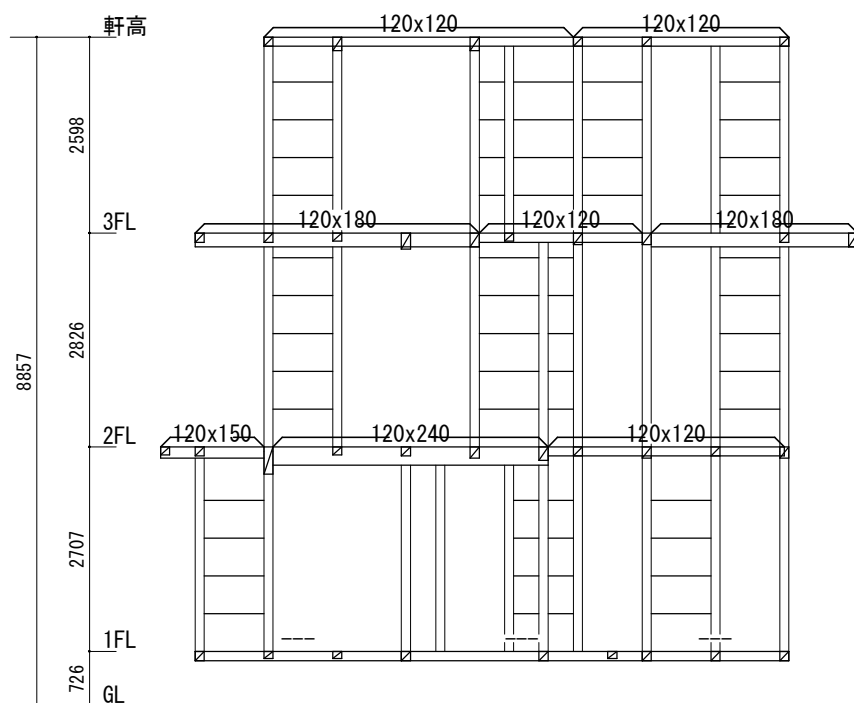


構造用面材 (PB15) を示す

※特記なき横架材の幅は105



3階:  $\lambda = 74.909$   
 2階:  $\lambda = 81.483$   
 1階:  $\lambda = 78.052$



適用	設計年月日	変更年月日	承認	承認	担当	工事名称	図面番号
						図面名 軸組図	S-7
					構造設計者 二級建築士埼玉県知事登録第24046号 金子秀和	縮尺 S=1/100	